

## 有機栽培に向く水稲品種を選定中！

当センターでは平成24年度から、水稲の有機栽培技術の確立に向け研究を進めています。今年度からは、これまで有機栽培向けに推奨している‘きぬむすめ’に加え、多様な有機栽培条件に適する新たな品種の選定に取り組んでいます。

### ○求められる品種特性

有機栽培では雑草対策が一番の課題です。田植え時期を遅くすると（6月上旬～中旬）雑草が一斉に発生して除草しやすくなるものの、この時期は気温が高いため水稲の草丈が伸びやすく、葉いもちが発生しやすい条件となります。そのため、求められる品種特性として以下の4点が重要となります。

- ①晩植適応性があること（遅く植えても収量がとりやすいこと）
- ②病害抵抗性があること（特に、いもち病）
- ③肥料が少なくても収量が確保できること（約400kg/10a以上）
- ④雑草が生えても減収程度が小さいこと（許容できる雑草発生量の目安は現在、検討中）

### ○試験の方法

6月9日に表1の6品種を株間15cm、条間30cmで1品種につき5条、10mに手植えをしました（39日育苗のポット苗）。各品種について除草する区を3区、除草しない区を3区設けました。前年の10月に米ぬかを100kg/10a施用する以外は無施肥としました。田植後の50日間は10cm程度に深水で管理し、以後、出穂期以外は間断灌水としました。今後、収量や品質を詳しく調査する予定です。

表1 検討している品種（系統）と特徴

品種・系統名	特 徴
‘島系77号’	雑草が生えても減収の程度が小さい、遅く植えても収量得やすい
‘はるもに’	害虫抵抗性に優れる（穂いもち、縞葉枯病及びトビイロウンカ）
‘亀 治’	安来市（広瀬町）で育成された古い品種、肥料が少なくても収量を確保しやすい可能性有り
-----	
基準品種：‘きぬむすめ’（遅く植えても収量得やすい）	
比較品種：‘コシヒカリ’ ‘つや姫’	

### ○データの活用方法

データを蓄積し、有機栽培に適する品種として指導に役立てる他、重要な形質を持つ品種は、今後、育種で活用する予定です。



写真1 出穂～登熟期の生育状況

問い合わせ先：栽培研究部作物科（担当：月森 弘、安達康弘）

TEL 0853-22-6946

E\_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp